

討議内容及び経過	(発言者名)	
○開会の言葉	事務局	
○あいさつ	教育長	別紙
○自己紹介		次第名簿参照
○協議		
(1)経過説明および検討会設置要綱について	教育長	別紙および p.1 ～の資料説明
(2)日程について	事務局	p.4 の説明
(3)部活動の現状と児童生徒の意識	事務局	レジュメ 4 の(2)説明
		p.5 ～ p.19 の説明
	委員	外部指導者を 7 名お願いしているが、対応できるのは休日のみとのこと。平日に指導していただくことは不可。自分で団体を持っている方も、そこまでして中学生を受け入れるのは現時点では無理とのこと。ただ、相談には乗っていただきたいとお願いしている。サッカー部は顧問が専門性を持っているが、審判や線審等もやるとなると人員が足りないため、外部指導者に入っている。男子バレー部は職員が夕方勤務が厳しいため、また休日の練習も厳しいため、地域の方をお願いしている実状がある。
		東部中では今後職員が減っていくことが予想されるため、部活動も減らしていかざるを得ないというのが現状である。このことは職員とも共有していて、今後どうするかを検討していく上で、部活動の地域移行がひとつのきっかけになればと思う。
		p.20 ～ p.22 の説明
	委員	文化庁の部活動移行パンフレットにあるとおり、ひとつの部活動あたりの人数が少なくなり、団体戦に出られない状況にあり、チーム練習ができないという制約がある。昨年度も本年度も男子バスケット部は夏の大会はチームとして出場できたが、新人戦では合同チームを組まざるを得ない。野球部については、R4 からは上田一中と新人戦から合同チームを組み、来年度もどこかと合同チームを組むことになりそう。女子バレーと剣道はチームが組める状況。吹奏楽が 3 年生が抜けたことにより、アンサンブルはできるがバンドが成立しない状況。夏のコンクールについて同様の課題を抱える立科中との合同バンドを組む

(4)情報交換 意見交換		方向で考え、既に合同練習を始めている。美術部は 2 番目に多い部員数。美術を専門とする職員がいなかったため、昨年度は休日部活を行わなかったが、本年度は部活動指導員をつけていただいたため、休日の活動もできるようになった。男バスと剣道部は外部指導者をお願いしているが、仕事を持っている方であるため、休日はお願いできるが、平日はなかなかお願いできない状況である。
	事務局	p.23 ～アンケート結果説明および p.39 現時点で教育委員会が考える課題について説明
	事務局	各団体で地域移行について考えていること、意見等をいただきたい。
	委員	特に意見はない。昨年度先進地視察で岐阜県の山口市、静岡県掛川市を訪問した。その 2 地域では既に地域移行をしているが、そのようなところへ実際に出向いて話を聞いた方が早いのではないか。
	委員	文化協会としては、こちらに早くは回ってこないと考える。休日に回ってきててもよいと思われる活動は中学校の部活にはない。茶道などは休日でも平日でも先生が対応できるので、学校によっては外部講師として対応している。合唱や吹奏楽は学校としてエントリーするので、地域クラブになったとき、学校名でエントリーするのかクラブ名でエントリーするのかというような問題がある。また、平日も地域クラブで活動するとしたら、学校の施設は使えるのか。1 ヶ月に 1 度くらいの強化練習ならよいが、学校の先生とやり方が違うので、音楽性をあわせるのが大変になる。打合せを密にするとすると、学校の先生の負担が増えるのではないか。文化協会は高齢化が進んでいるため、若い人たちの指導に対応できるかも心配。R8 年度を目指しているなら、そのような課題をつめていく必要がある。
	委員	総合型地域スポーツクラブで市民と話す中で、やはり地域にあったやり方が必要なのだと思う。Sany TOMI も設立して 3 年目を迎えるが、既にあるスポーツ団体の隙間を埋める方向で活動してきた。たとえば、体操教室やダンススクール、アーバンスポーツなどであるため、今中学校でやっている部活動を受け入れるということについてまだイメージが持てない。逆に新しいものを作るという方向なら一緒にできると思う。
	委員	まずはどこから筋道を立てていくかについて、受入団体がど

	の位協力してくださるのか、スポーツ協会がどのように関わってくださるのかがはっきりしてこない、学校としては身動きできない状況である。実際に具体的な移行について話し合うところまでいった部活もあるが、いざ移行となったとき、これまでは無料で行ってきた部活が受益者負担の名の下、有料になることや顧問がいるのになぜ地域移行しなければならないのか等、生徒や保護者が疑問に感じることに對して、丁寧に説明していく必要がある。その点について市教委やスポーツ協会等が各団体とすりあわせをしていってほしい。子どもたちの活動の場を奪うような結果になっては困る。
委員	学校の立場、校長の立場からすると、子どもたちがやりたいと思って今やっている活動を保障し続けたいということが本質。しかし、今の施策としては、現中学校 1 年生が 3 年の時点で休日部活が学校ではできなくなり、今の小学生が中学に入ってくる時には、平日も学校では部活動ができないのです。やってはいけないという話なのです。それで、学校ではできないので、地域にあるこれだけの活動から選びなさいといったときに、すんなりと選べれば理想だが、しっかりそれが準備できるのか。教職員の兼業があったとしてもそのまま部活動を移行していくのは難しいのではないか。そのあたりの受け皿の問題が大きいのではないか。さらには、小中学生にこれからの部活は学校ではないということを伝えなければならない。そのタイミングも難しい。
委員	昨年度は卓球の部活動指導員と市民の卓球チームの監督、長野県卓球連盟の役員もやっている。東信では移行が遅れている。東御市の現状では受け入れが難しいと思う。東御市以外の子も集まってやっており、部活動と違って競技志向という形で活動している。部活動は違うと銘打って誓約書も出してもらって活動している。部活動は学校教育の一環で目的も違うため、既存の部活をそのまま受け入れるというのは難しいのではないか。どのスポーツでも新しい受け皿を作っていく必要があると思う。一番は市のスポーツ教室がよいとは思うが。実際にはそれも難しいか。指導者の報酬や資格の問題もあるため、かなり難しいと思う。
委員	部活動の地域移行は大人の事情だと思うが、子どもたちの不安とか子どもたちの部活動にける思いとかがおさざりにならないように願っている。

委員	細かいことはよくわからない。いろいろなクラブチームがあるのでそこで受け入れてもらえるのではないかと考えていたが、確かに目的が違う。短いスパンなので、いろいろ議論していかなければならない。
委員	子どもの意見が全てだと思う。一保護者としては、子どもの考えを大切にしたい。部活ができなくなるというのは残念。ただ、PTA 会長としては、先生の負担を軽くというのは PTA の負担も軽くしてほしいと思う。
委員	子どもの意見にあった「お金がかかって不安」と「送迎が心配」という点について。現在は学校の先生に見てもらっているので安心だが、地域で見てもらうとなるとそれ相応の責任が生じるので、謝礼が必要になると思う。その謝礼については現状では保護者負担になると思うが、その負担に保護者が耐えられるのか心配になる。保護者が負担するのか、学校が負担するのか、市が負担するのかをまず決めなければ動いていけないと思う。送迎と費用の負担について方針を決めた上で、できるところから始めていけばよい。
委員	学校の部活は、スポーツや文化に気軽にふれられる場だと思う。もっと専門的にその種目を究めたいと考える場合にクラブチームに所属したり、クラブチーム一本で活動したりすると思う。そう考えると、ちょっとやってみたい子と、クラブチームに所属してしっかりやっている子では思いが違うため、うまくいかないのではないかと心配。あとは費用負担の問題で、親としては子どもにいろいろな経験をさせてやりたいが、費用負担ができない家庭が出てくるのではないかと心配。送迎も同じくで、家は 3 人の子どもがいますが、3 人がばらばらになったとき、この子は行かれる、この子は行かれないとなる場合があり、一人だけあきらめさせるというのは親として非常に辛い。学校での部活は移動も少ないし、いろいろな経験も積んで帰ってこれることが大きなメリットだと思う。
委員	子どもたちに部活動を続けさせるのであれば、地域で支えていく必要もあるのかと思う。メリットとして部活動以外の選択肢も増えてくるのはいいと感じたが、移動の面ではどうするのか心配。先生が教える部活だからこそ部活というイメージが強かったと感じる。自分も剣道連盟の指導員をいっているが、やはり働いている中で指導する時間がなかなか作れないので、その

	部分もフォローしていく必要があると感じる。あとは保険の問題がある。移動と保険について検討していく必要がある。短いスパンなので、いろいろ議論していかなければならない。
委員	地域移行の理屈はよくわかった。学校教育としては限界が来ていて地域移行はやむを得ない部分がある。子どもが不安だということが一番。子どもが中心のことなので子どもを置き去りにしてということではなく、子どもと一緒に考えて、納得するような形でやっていってもらうことが一番だと思う。
事務局	それぞれの立場でいろいろな意見をいただいた。こういった声をどう調整して進めていくかこちらでも検討させていただき、この会で調整していきたい。オブザーバーの方々のご意見をいただきたい。
オブザーバー	地域移行に関して 3、4 年前から話は出ていたが、まだ時間があるからと延び延びになっていていっこうに進んでこなかった。Sany の設立の時にもそれを意識して将来的に部活動の受け皿になり得るかも含めて活動をスタートしたが、現状は人的な問題や資源の関係からそうになっていない。子どもが中心なので子どもたちがどうしたいか、それに対して大人が何をできるのかを大切にしたい。子どもたちの運動量がどんどん減っている状況で、いよいよ移行を進めていかなければならない状況になってきたので、何とか智恵を寄せ合っていきたい。
オブザーバー	以前からこの話題に触れることはあったが、皆さんの話や資料から簡単ではないということがわかった。上小や東御は遅れているとのことだが、それをプラスに転換するとすれば、先にトライしている地域がたくさんあるし、その地域も子どもたちの思いや保護者、指導者の課題があり、共通する部分があって、トライしてうまくいった事例もあれば逆に立ちゆかなくなった事例もあると思うので、そのような事例を集めてこの会で共有し、東御のスタイルを出せればよいと思う。情報収集には協力したい。
オブザーバー	部活動の地域移行に納得しているのは誰かを明確にしないと進まないと思う。特に子どもたちは納得して進むのか、この説明をするのは学校なのか保護者なのか、地域前提でやることなのかをまず子どもたちに説明できないと、我々も進まないと率直に思っている。進まない会議に何回も出席してきているが、まず子どもに納得してもらうことが第一で、それに関わる人た

